



平成 22 年 3 月 17 日
独立行政法人国立科学博物館

ホモ・フロレシエンシスの新展示について

独立行政法人国立科学博物館（館長：近藤 信司）は、常設展「人類の進化」の一部を改装し、3月22日より、インドネシアのフローレス島で発見された謎の小型人類ホモ・フロレシエンシスの日本初の実物大生体復元などを含む新コーナー「ユーラシアへ拡散した人類：原人と旧人の進化・拡散・多様化」をオープンします。そして、3月23日に、プレス説明会（別紙1）を行いますので、お知らせいたします。

ホモ・フロレシエンシスは、2003年に発見された新種の原人で、1万数千年前まで生き残っていました。人類進化の流れに逆行する小型化した脳、原人でありながら海を越えて島へ渡ったこと、さらに当地域において数万年間にわたって新人（ホモ・サピエンス）と共存していたことなど、人類進化のこれまでの常識をいくつも覆し、さらにその由来や進化過程をめぐって、世界中を巻き込んだ論争を引き起こしています。現在、当館人類研究部の研究者がこの化石の研究に携わっていますが、その成果などをもとに、発掘担当者らの協力も得て、日本で初めてとなるこの新展示を実現することができました。

新展示では、（1）ホモ・フロレシエンシスの実物大生体復元のほか、（2）当時のフローレス島に生息していた不思議な動物たちの実物大復元画、（3）人類の系統進化・地理的拡散・多様化について、現在の主な知見を統合したパネル解説、（4）原人と旧人の進化についての地域別解説（アフリカ、西アジア・コーカサス、ヨーロッパ、東アジア、ジャワ、フローレス島）などがあります。

説明会当日には、報道用の写真をお渡しできます。

また、NHK衛星放送にて、3月26日に関連番組が放映されます。

さらに、4月17日には、ホモ・フロレシエンシスの発掘調査を行っている、インドネシアとオーストラリアの研究者を招いて、国立科学博物館にて講演会を行います（別紙2）。

本件についての問合せ

<展示、講演会、プレス説明会>

事業推進部 広報・サービス課 担当：藤田・内尾

TEL:03-5814-9857,9852 FAX:03-5814-9898 E-mail:jyo-ten@kahaku.go.jp

<ホモ・フロレシエンシスほか人類関係>

人類研究部 海部 TEL:03-3364-2311（代表） FAX:03-3364-7104

E-mail:kaiфу@kahaku.go.jp

<国立科学博物館ホームページ> <http://www.kahaku.go.jp/>

別紙1

ホモ・フロレンシエンスの新展示についてのプレス説明会

- 日時 平成22年3月23日(火) 午前10時～ 約30分
9時30分以降9時50分までに職員通用口(図)においでください。
なお、車での来館は御遠慮下さい。
- 実施内容 展示室で30分程度説明をし、その後御質問にお答えします。
説明者：海部陽介(人類研究部研究主幹)
- 参加申込 3月19日(金)までにメールまたはファクスでお知らせください。
メール：iyo-ten@kahaku.go.jp
ファクス： 03-5814-9898 (このペーパーをお使いください)



<担当>
国立科学博物館
事業推進部
広報・サービス課
藤田、内尾
電話：03-5814-9857
9852

ファクス送信票

ホモ・フロレンシエンスの新展示についてのプレス説明会に出席します。

社名：

所属：

御名前：

別紙2

国立科学博物館 常設展改装記念講演会
「孤島に生き残っていた小型人類ホモ・フロレシエンシスの謎」
開催のお知らせ

今春、国立科学博物館地球館地下2階人類の「原人・旧人の進化」コーナーが展示更新し、最近発見されて国際的な注目を集めている小型人類ホモ・フロレシエンシスの生体復元などを新たな目玉展示として設置します。新しい展示コーナーがオープンするこの機会に、フロレス島での最近の調査研究の様子やこれまで明らかになった研究成果について、現地で調査を行っているインドネシアとオーストラリアの研究者3名による講演のほか、当館研究者による解説を行います。この講演会によって、新しい展示を作成する背景にある人類学上の大発見や、その重要性をより深く理解していただけたと思います。

開催日時： 2010年 4月17日(土) (13:00開場) 13:30-16:30
会場： 国立科学博物館 上野本館 講堂
対象： 一般 120名 (事前申し込み制、先着順)
参加費： 無料 (ただし、常設展示入館料必要) 備考： 通訳付
主催： 国立科学博物館 後援： 日本人類学会

講演会プログラム

13:30 開会のあいさつ

13:40-15:00 ■ 「フロレス島における国際共同研究プロジェクト」
トニー・ジュビアントノ 博士 (Dr. Tony Djubiantono)
(インドネシア・国立考古学研究センター・所長)

■ 「ホモ・フロレシエンシス： その調査と発見の意義」
マイク・モーウッド 博士 (Prof. Mike Morwood)
(オーストラリア・ウォロンゴン大学・教授)

15:00-15:10 (休憩)

15:10-16:30 ■ 「ホモ・フロレシエンシスの発見： リャン・ブア洞窟の発掘調査」
トーマス・スティクナ 博士 (Dr. Thomas Stikna)
(インドネシア・国立考古学研究センター)

■ 「科博で蘇ったホモ・フロレシエンシス： リャン・ブア1号の生体復元展示」
海部陽介・馬場悠男・坂上和宏 (国立科学博物館人類研究部)

16:30 閉会のあいさつ

「講演会申込方法」

下記必須事項を記入の上、国立科学博物館の [Web サイトイベント申込フォーム](#)、[電子メール](#)又は
[往復はがき](#)でお申し込み下さい。

【必須記入事項】 (1)参加者の氏名、(2)住所、(3)電話番号、(4)年齢、(5)職業、(6)イベント名

【申込メールアドレス】 jyo-ten@kahaku.go.jp

【往復はがき申込先】 〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20 国立科学博物館常設展示担当宛

【申込締切日】 4月5日(月) 必着

ホモ・フロレシエンシスの発見の意義

以下のような数々の点で、人類史研究に“激震”を起こしました。

■ ホモ・フロレシエンシスとは？

2003年にフローレス島(インドネシア)のリャン・ブア洞窟で発見され、2004年に発表された新種の原人。学名はホモ・フロレシエンシス、日本語での一般名はフロレス原人。

■ 生息年代等

わかっている範囲で約10万～1万7000年前。その祖先はおそらく85万年前以前に、島にやってきた原人。

■ どのような原人が祖先だったか？

祖先となる原人(ホモ・ハビリス、ドマニシ原人、ジャワ原人)について、現在激しい論争がある。ホモ・ハビリスであれば、原人の出アフリカの定説が覆る。ドマニシ原人あるいはジャワ原人であれば、原人の極端な矮小化を認めなければならない。いずれにしても、これまでの常識と大きく異なる。

■ 身体の特徴

身長は1m程度で、猿人並みに小さい。それでも身体の各所に原人としての形態特徴がある。脳サイズも約400cc とチンパンジー/猿人並みであるにも関わらず、石器を製作しおそらく狩りも行っていた。小さな脳でもそれだけの能力があったという衝撃と、人類進化において脳の小型化という想定外の例があったという衝撃が、世界中の注目を集めている。

■ 当時の環境と絶滅原因等について

当時のフローレス島には、矮小化したゾウ、大型で肉食のハゲコウ、コモドオオトカゲ、巨大ラットなどの、種類は少ないが独特な動物たちがいた。フロレシエンシスは、この環境の中をどのように生き抜いていたのか、今後の研究が待たれる。フロレシエンシスは、周辺地域にホモ・サピエンスが現れた後も長い間生き残っていた。その背景と最終的な絶滅の過程・原因について、今後の研究が待たれる。

「原人と旧人の進化・拡散・多様化」の展示コーナーの内容

主に以下のポイントについて、資料とグラフィックスをもとに解説しています。

- 原人は初めてアフリカの外へ進出した人類であったこと。
- 地理的拡散とともに多様化していったこと。
- かつて、異なる地域に異なる人類が存在した時代があったこと。
- 原人の各地域集団内にも、様々な進化が生じていたこと。
- 旧人の起源と分布域についての謎。
- ユーラシアの原人・旧人は、最終的に実質上絶滅し、アフリカ起源のホモ・サピエンスが全世界に広がっていったこと。

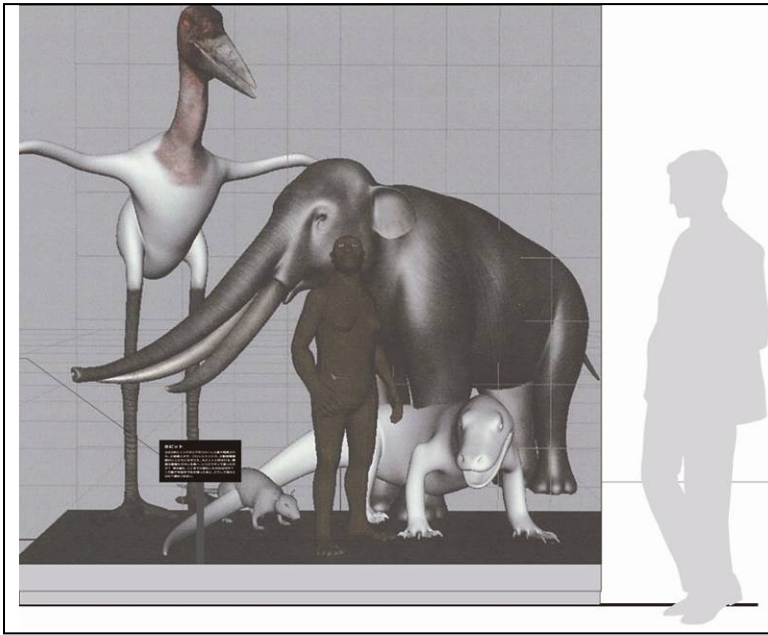
今回の改修部分



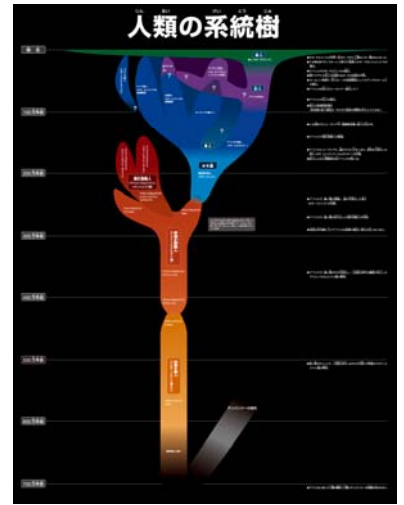
地球館B2F
人類の進化展示フロア



復元模型制作の様子



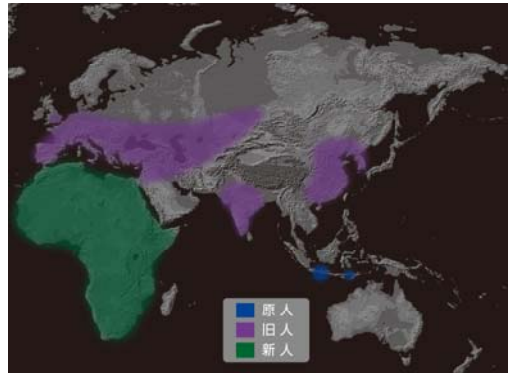
ホモ・フロレシエンシス生体復元展示完成予想図 提供:NHK
(後方は島に生息していた巨大ハゲコウ、巨大ラット、矮小化したゾウ、コモドオオトカゲ)



最新知識を反映した
人類進化の系統樹



ホモ・フロレシエンシスが
発見されたリャン・ブア洞窟
における発掘調査



人類の地理的多様化
を解説する
グラフィックパネル

※全ての画像の転載を禁じます